

インパクト
コンソーシアム

第7回運営委員会 資料

2025年9月4日

事務局

1. 開会

2. 足元の状況

【10分】

- ◆ 総会決議の結果、会員の状況
- ◆ 成果報告会アンケート結果

3. 今後の方針

【45分】

- ◆ コンソーシアム全体（事務局）
- ◆ 分科会（座長）
- ◆ 国際的な議論との連携・海外への発信（グローバルアドバイザリーパネル）
- ◆ インパクト投資の認知・理解の更なる向上に向けた勉強会（オーガナイズングデスク）

4. 意見交換

【30分】

5. 閉会

1. 開会

2. 足元の状況

【10分】

- ◆ 総会決議の結果、会員の状況
- ◆ 成果報告会アンケート結果

3. 今後の方針

【45分】

- ◆ コンソーシアム全体（事務局）
- ◆ 分科会（座長）
- ◆ 国際的な議論との連携・海外への発信（グローバルアドバイザリーパネル）
- ◆ インパクト投資の認知・理解の更なる向上に向けた勉強会（オーガナイズングデスク）

4. 意見交換

【30分】

5. 閉会

総会決議の結果

- インパクトコンソーシアム第2回総会にて、規約の改正（第1号議案）、会長・副会長・運営委員の選任（第2号・3号・4号議案）について諮ったところ、承認された。

規約の改正（第1号議案）

- 総会への参加意識の醸成と議論の活性化、また安定的な総会の成立のため、以下の点について、インパクトコンソーシアムの規約を改正してよいか諮ったところ、承認された。
 - ① 総会における議決権を連続して3回行使しない場合の退会要件を追加
 - ② 総会の定足数を「過半数」から「3分の1以上」に緩和

会長・副会長・運営委員の選任 （第2号・3号・4号議案）

- 各候補者について、令和7年度のインパクトコンソーシアム会長・副会長・運営委員として選任してよいか諮ったところ、承認された。

(参考) コンソーシアムについて

- インパクト実現を図る経済・金融の多様な取組を支援し、インパクトの創出を図る投融資を有力な手法・市場として確立し、事業を推進していくため、投資家・金融機関、企業、NPO、自治体等の幅広い関係者が協働・対話を図る場として、23年11月、官民連携の「インパクトコンソーシアム」を設置。
- 運営については、官民連携の場として政府から支援を行いつつ、参加者の自主的な課題設定・議論を旨とし、投資指標や事例、対話・支援手法等の産金間の実践上の知見・課題の収集・発信を中心としつつ、インパクト実現の取組支援につながる幅広い事項に係る議論を行う。また、必要に応じ、政策発信を含む対外メッセージの発信等を検討していく。

会長

- 高崎経済大学 学長 水口 剛

副会長

- GSG Impact JAPAN 委員長 渋澤 健
- 日本経済団体連合会 常務理事 長谷川 知子
- 全国銀行協会 企画委員長 上野 義明

運営委員

- 日本経済団体連合会 本部長 正木 義久
- 経済同友会 執行役 宮崎 喜久代
- 日本商工会議所 企画調査部長 山内 清行
- インパクトスタートアップ協会 代表理事 米良 はるか
- GSG Impact JAPAN事務局SIIF専務理事 青柳 光昌
- スタートアップ都市推進協議会 会長 高島 宗一郎
- 三菱UFJ銀行 執行役員 井口 直孝
- 横浜銀行 代表取締役副頭取 小野寺 伸夫※1
- 第一生命保険 常務執行役員 重本 和之※2
- 大和証券 執行役員 木地 佳彦※3
- 日本ベンチャーキャピタル協会 会長 田島 聡一
- 日本政策投資銀行 執行役員経営企画部長 成清 正和
- りそなアセットマネジメント 常務執行役員 松原 稔

※1 協会の年次体制変更に伴い、常陽銀行 取締役専務執行役員 小野 利彦氏から交代

※2 協会の年次体制変更に伴い、日本生命保険 執行役員 河崎 圭助氏から交代

※3 協会の年次体制変更に伴い、野村ホールディングス 執行役員 岸田 吉史氏から交代

会員の状況

- インパクトコンソーシアムの会員数は、2025年8月末現在、428（議決権を持つ法人会員は361）となっている。
- 第4回運営委員会から会員数は76増加した（主に事業会社、支援機関等、個人の会員）。

会員の状況

カテゴリ	具体例	2025年8月末時点
事業会社	（スタートアップや地域企業、上場企業等）	1 3 5
金融機関等	（銀行、保険会社、証券会社、資産運用会社等）	1 1 1
支援機関等	（シンクタンク、財団、非営利活動法人等）	8 0
業界団体・協議会等	（経済団体、証券団体等）	1 7
その他 （自治体・大学等）	（市役所、学校法人等）	1 8
個人		6 7
合計		4 2 8

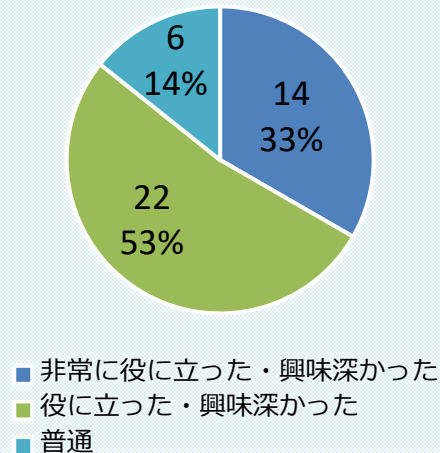
成果報告会アンケート結果

開催概要

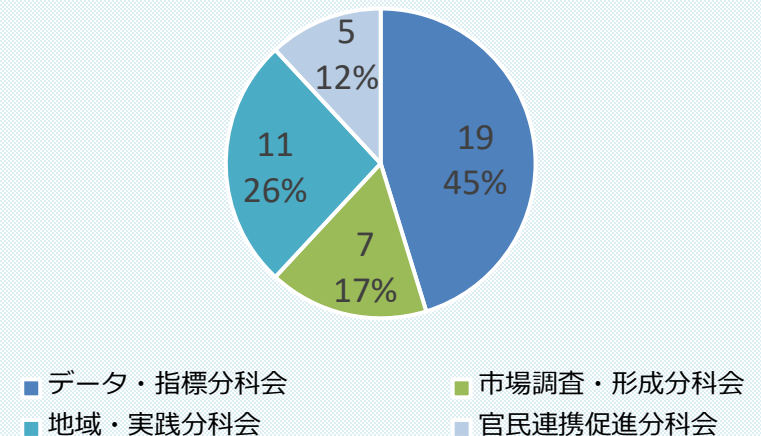
- **日時** : 6月27日（金）10:00-12:00
- **開催目的** : インパクトコンソーシアム会員及び外部一般参加者に向けて、第1期各分科会の成果を発表しインパクトコンソーシアムの活動を発信すること
- **主な内容** : 各分科会の成果報告と各分科会の主要メンバーによるパネルディスカッション

アンケート結果

1 成果報告会の全体的な満足度



2 参加者が特に興味をもった分科会



3 主なコメント

- ・ 非常に示唆に富む内容で、改めてこの分野のダイナミズムを感じることができた
- ・ インパクト創出における論点・課題と現在地について、様々な参加者からの視点で議論・成果が共有された
- ・ それぞれが意図を持つことに主軸がおかれている「インパクト」の指標に、どのように一定のデータ標準化をもたらすのかが気になる
- ・ インパクト投資を市場により浸透させていくために何が必要なのか、資金の需要サイド、供給サイド双方からの目線での論点が見えた
- ・ 社会や国は様々な地域が集まって形成されるため、各地域の現状とそこでインパクト創出に取り組む人々の解像度が高まることを期待する

1. 開会

2. 足元の状況

【10分】

- ◆ 総会決議の結果、会員の状況
- ◆ 成果報告会アンケート結果

3. 今後の方針

【45分】

- ◆ コンソーシアム全体（事務局）
- ◆ 分科会（座長）
- ◆ 国際的な議論との連携・海外への発信（グローバルアドバイザリーパネル）
- ◆ インパクト投資の認知・理解の更なる向上に向けた勉強会（オーガナイズングデスク）

4. 意見交換

【30分】

5. 閉会

コンソーシアム全体の方針

- 参加者の負担や分科会間の重複も考慮した効果的・効率的な運営に留意しつつ、インパクトを創出する企業・投資家等の担い手の更なる拡大や、民間のイニシアティブとも連携した海外への発信を図る。

1

インパクトの担い手の
裾野拡大

- コンソーシアムの会員数は着実に増加しており、インパクトを創出する事業や投資の認知度や関心が高まりつつあるが、会員以外も参加できる会を開催する等、更なる関心喚起や周知活動を行う。
- コンソーシアムに参加して間もない層や、取組を始めたばかりの層に対する勉強会を開催する等、コンソーシアム内の議論の活発化や、事業や投資の実践に繋がられるような取組を行う。

2

効果的・効率的な
運営

- 4つの分科会の議論をキャッチアップすることに対する会員の負担感や、分科会間の重複を指摘する意見がある一方、各分科会のテーマは引き続き議論されることが望ましいとの考え方のもと、今期についてはより効果的・効率的な運営に十分留意しつつ、4分科会体制を維持する。
- オーガナイズングデスクによるアンケート調査を継続的に実施し、調査結果を踏まえて会員が参加しやすい工夫を行う（分科会の開催時間を考慮する、アーカイブ配信を見やすい形に工夫する等）。
- より効率的・効果的な運営を行う観点から、事務局とオーガナイズングデスクの更なる連携・協働の推進を図る。

3

民間のイニシアティブ
との連携と
海外への発信・貢献

- 関連イニシアティブと連携したイベントや、グローバルアドバイザリーパネル等の開催等を通じ、コンソーシアムの取組を海外に発信するとともに、国際的な議論にも貢献する。

第2期スケジュールのイメージ

- 各分科会の**具**体内容やスケジュールは、**分科会ごとに主体的・柔軟に検討・対応**することとしつつ、**議論の状況や今後の見通しなどを、運営委員会で報告**いただき、翌年度の対応につなげていく。

年間イメージ

※あくまでイメージであり、状況を見ながら柔軟に調整

		2025						2026					
		7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6
総会													第3回
			9/4 キックオフ										報告
運営委員会 アドバイザー委員会 グローバルアドバイザーパネル オーガナイズングデスク				他のインパクト関連団体や、各分科会の活動とも連携しながら、 海外有識者からの知見共有・日本の取組を海外へ発信									
				インパクト投資の認知・理解の更なる向上に向けた勉強会の実施									
分 科 会	データ ・指標			関心の高い分野のインパクト指標・データ・事例の整理、 インパクト・データベースの案内板の活用に向けた議論									
	市場調査 ・形成			インパクトの評価・開示等に関する事例研究・知見共有									
	地域 ・実践			地域企業に対する金融支援の具体事例を通じ企業評価のあり方等を議論									
					フィールドワーク								
官民連携 促進				「実践ガイド」を踏まえた自治体とスタートアップの連携の促進									

1. データ・指標分科会

テーマ：インパクト企業及び投資家がインパクトの測定・管理に活用できる実践的なデータ・指標の整備のあり方

〔今年度の成果物の内容〕

- ・ インパクトの測定・管理に活用可能な[国内外の指標一覧・データベースの整理](#)
 - ・ インパクト創出を意図する企業・投資家において[関心の高い課題分野の特定](#)（※）、当該分野に係るデータ・指標の整備に向けた[課題の整理](#)
- （※）気候変動・生物多様性、健康・医療、インフラ整備・都市開発

〔来年度の方向性〕

- ・ [関心の高い分野のインパクト指標・データ・事例の整理、インパクトデータベースの案内板の活用](#)に向けた議論

2. 市場調査・形成分科会

テーマ：特に投資実務が定まっていないとされる上場企業へのインパクト投資手法のあり方

〔今年度の成果物の内容〕

- ・ [インパクト及びインパクト投資の定義・考え方、インパクトに取り組む意義・メリット](#)の整理
- ・ 上場企業へのインパクト投資に係る[課題へのアプローチ](#)の紹介
 - [多角的に事業を営む場合](#)のインパクトの[特定・測定・管理](#)
 - インパクトの[開示](#)、企業と投資家間の[対話](#)
 - [アセットオーナーによるインパクト投資](#)

〔来年度の方向性〕

- ・ [インパクトの評価・開示等に関する事例研究・知見共有](#)

3. 地域・実践分科会

テーマ：地域のインパクト企業・金融機関等のケーススタディやフィールドワークを通じた、地域におけるインパクト投資の機運醸成・裾野拡大のあり方

〔今年度の成果物の内容〕

- ・ 地域内外の幅広い関係者間での[共通理解を得る方法論](#)や、[インパクトを事業評価に加味する視点](#)等の整理

- ・ 地域における[取組事例集](#)

〔来年度の方向性〕

- ・ [地域におけるインパクト投資に係るファイナンス手法](#)の事例共有・議論

4. 官民連携促進分科会

テーマ：地方自治体とインパクトスタートアップの連携による社会課題の解決の促進に向けた課題の構造化や課題解決の方向性と手法の検討

〔今年度の成果物の内容〕

- ・ 地方行政におけるインパクトスタートアップのソリューションの活用に向けた[官民連携のノウハウ・事例等の情報を集約](#)
- ・ [今後の事例創出に繋げる](#)ことを目指して、[官民連携に資するノウハウや手法の普及・活用促進方法](#)を検討

〔来年度の方向性〕

- ・ 「実践ガイド」を踏まえた[自治体とスタートアップの連携の促進](#)

分科会 1 データ・指標分科会（1 / 3）

概要

- 国内外の先行研究等と連携しながら、投資事例等の共有・分析等を行い、中長期的な課題解決・事業性実現等に有効なインパクト指標の設定のあり方、投資実施時のデータの収集・推計方法、社会課題を示すマクロデータのあり方など、データ・指標の項目と着眼点、収集方法等について、議論を行う。
- 第1期の議論をふまえて、インパクト・データベースの案内板（試行版）の実装・展開を行うとともに、事業者・投資家等の関心の高い分野（環境、ヘルスケア、インフラ）について、ディスカッションメンバー間において取組事例の共有・議論を通じて、あるべきインパクト・データベースの在り方を検討する。

メンバー

※敬称略・五十音順

- 座長：一般財団法人社会的インパクト・マネジメント・イニシアチブ 代表理事 今田 克司
- 副座長：株式会社みずほフィナンシャルグループ グループCSuO補佐（サステナビリティ・インパクト担当） 末吉 光太郎
- アドバイザー：東京大学大学院経済学研究科 教授 山口 慎太郎
- ディスカッションメンバー（12名）
 - ・ 明治安田生命保険相互会社 青木 圭介
 - ・ ANAホールディングス株式会社 五十嵐 久人
 - ・ 農林中央金庫 岡本 純宜
 - ・ 株式会社キャピタルメディカベンチャーズ 後町 陽子
 - ・ 王子ホールディングス株式会社 齊藤 基三郎
 - ・ 日清食品ホールディングス株式会社 齊藤 圭
 - ・ 株式会社三菱UFJ銀行 重松 多聞
 - ・ オムロン株式会社 萩原 留美
 - ・ CSRデザイン環境投資顧問 堀江 隆一
 - ・ 株式会社環境エネルギー投資 森江 久美子
 - ・ Ubie株式会社 守屋 祐一郎
 - ・ 三井住友DSアセットマネジメント株式会社 芳村 俊平
- ゲストスピーカー
 - ・ 各分科会におけるテーマ等に応じて、第1期ディスカッションメンバー、新しい分野における先行事業者、海外データ提供機関、関連省庁、その他有識者等をゲストスピーカーとして招聘し、議論の活性化を企図

活動と成果のイメージ

1

インパクト・データベースの案内板（試行版）の実装・展開とフィードバック・改善点の収集

- 第1期に提示したインパクト・データベースの案内板のイメージに基づいて、その（試行版）のインパクトコンソーシアムウェブサイトへの実装・展開を行い、利用者からのフィードバック・改善要望等を収集。フィードバック等の内容を取りまとめ、民間事業者主導の更なる取組の推進材料として提示。

2

関心の高い3分野（※）におけるデータ・指標イメージ（指標集）の検討

（※）環境、ヘルスケア、インフラ

- 関心の高い3分野（環境、ヘルスケア、インフラ）に関わるデータ・指標について、既存のデータベース・省庁の公表物等をもとに、具体的な取組事例やベースライン値（※）等と紐づけつつ、官民連携の下で指標の整理を行う。
（※）取組前の状態や業界平均等の現状を示す基準値
- 指標の整理に際して、ディスカッションメンバーから発表・共有のあった取組事例については「事例集」としても取りまとめる。

- 開催形式は原則オンライン、1回につき2時間程度で、2026年3月までに4回程度の開催を予定（変更の可能性あり）
- 別途、分科会と異なる形式で、新しい分野における先行事業者、海外データ提供機関等をプレゼンターとする会も予定

データ・指標分科会の取組

データ・指標を活用する主な場面を
踏まえた既存データベースの整理

計画 → 実践 → 測定・評価 → 報告・活用・検証

場面 1 インパクト
目標の特定

場面 2 指標とベース
ライン値特定

場面 3 アウトカム（実測
値）とベースライン
値の比較・評価

インパクト	指標	ベースライン	測定・評価
SDG 13 気候変動 削減目標 1.1 気候変動による被害の軽減	気候変動による被害の軽減	気候変動による被害の軽減	気候変動による被害の軽減
SDG 13 気候変動 削減目標 1.2 気候変動による被害の軽減	気候変動による被害の軽減	気候変動による被害の軽減	気候変動による被害の軽減
SDG 13 気候変動 削減目標 1.3 気候変動による被害の軽減	気候変動による被害の軽減	気候変動による被害の軽減	気候変動による被害の軽減

インパクト	指標	ベースライン	測定・評価
SDG 13 気候変動 削減目標 1.1 気候変動による被害の軽減	気候変動による被害の軽減	気候変動による被害の軽減	気候変動による被害の軽減
SDG 13 気候変動 削減目標 1.2 気候変動による被害の軽減	気候変動による被害の軽減	気候変動による被害の軽減	気候変動による被害の軽減
SDG 13 気候変動 削減目標 1.3 気候変動による被害の軽減	気候変動による被害の軽減	気候変動による被害の軽減	気候変動による被害の軽減

1 インパクト・データベースの案内板（試行版）の
実装・展開とフィードバック・改善点の収集



取組：案内版（試行版）のウェブサイト
実装とフィードバック・改善点の収集

各種指標・統計・
調査結果の活用

関係省庁等がまと
めるインパクト創出
・投資に関する情報

国内・海外データ
提供機関の活動

企業・投資家等の関心が高い課題分野の特定

環 境

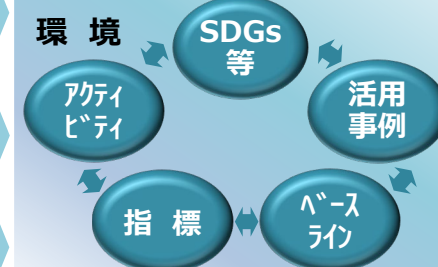
ヘルスケア

インフラ

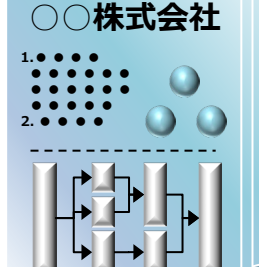
2 関心の高い3分野におけるデータ・
指標イメージ（指標集）の検討

取組：プレゼンターから発表のあった取組事例の共有・収集、
インパクト指標集（案）の考え方に関わる議論

指標集（案）イメージ



事例集イメージ



さらなるインパクト創出・インパクト投資の促進につながる対応の検討・推進

2024

2025

概要

- 日本のインパクト投資市場の概況を整理し、国際比較や本邦投資家・企業等の特徴も踏まえつつ、裾野拡大を図るべき市場やこのための課題等について議論する。例えば、上場前の又は上場を目指さない企業のインパクト評価、セカンダリー・上場等の出口、多角的な事業を営む上場企業へのインパクト評価、長期投資のあり方等について順次議論を行う。
- 第1期は、特にエクイティ投資の中でも上場株式に着目しつつ、未上場株式へのインパクト投資との接続の観点も踏まえて議論。第2期では、第1期の議論を踏まえつつ、様々な主体の視点から、**インパクト創出と投資収益の両立**に向けた、IMMの観点での**インパクトの評価・開示等に関する事例研究・知見共有**を行う。

メンバー

※敬称略・五十音順

- 座 長：フロネシス・パートナーズ株式会社 白石 智哉
- 副座長：りそなアセットマネジメント株式会社 チーフ・ファンド・マネージャー 井浦 広樹
インパクト・キャピタル株式会社 代表取締役 黄 春梅
- ディスカッションメンバー（15名）
 - ・ 株式会社ユカリア 荒木 大矢
 - ・ 野村アセットマネジメント 今村 敏之
 - ・ 株式会社NTTデータグループ 遠藤 荘太
 - ・ 三井住友信託銀行株式会社 大倉 彬
 - ・ 日本生命保険相互会社 景山 綾子
 - ・ 五常・アンド・カンパニー株式会社 堅田 航平
 - ・ 三菱UFJ信託銀行株式会社 加藤 正裕
 - ・ 合同会社 Co-Create Frontier 菊池 勝也
 - ・ カディラキャピタルマネジメント株式会社 坂本 一太
 - ・ Impact Frontiers 須藤 奈応
 - ・ 大和証券株式会社 芹沢 健自
 - ・ アサヒグループホールディングス株式会社 西原 香織
 - ・ 株式会社かんぼ生命保険 野村 裕之
 - ・ GLIN Impact Capital 秦 雅弘
 - ・ ニッセイアセットマネジメント株式会社 林 寿和

分科会 2 市場調査・形成分科会 (2/2)

第2期の活動イメージ

- インパクト投資市場のさらなる参加者の拡大に向けて、第1期で整理した課題に対応する形で、①IMMの事例研究、②ケーススタディによる理解の深化、③ステークホルダーの協働事例の理解、という3ステップで議論を進める。
- 海外インパクト投資家等のゲストスピーカーも含めたプレゼンテーションや、インパクトの開示に関する企業と投資家との対話デモの実施も予定。会員が実務において活用しやすいよう、議論の様子や具体的な事例のイメージが分かりやすいような形で資料をとりまとめる。
- 開催形式は原則オンライン（対話デモを行う際は対面とのハイブリッド）、1回につき2時間程度、2026年5月までに4回程度の開催を予定。

	1. IMMの事例研究	2. ケーススタディによる理解の深化	3. ステークホルダーの協働事例の理解
議論概要	➢ 第2期の議論の土台となるIMMのフレームワークの理解 ➢ 海外を中心としたIMMの事例の研究	➢ IMMのフレームワークを理解の上、インパクトの評価・開示（価値創造ストーリーの作成・サステナビリティ情報の活用）の事例をケーススタディ ➢ インパクトの開示を踏まえた対話におけるノウハウや課題の理解（対話デモ）	➢ アセットオーナー・アセットマネージャーなどのステークホルダー間の協働事例を踏まえて協働のあり方を理解
対応テーマ	① インパクト創出と投資収益の両立の健全な循環に向けた知見の共有	① インパクト創出と投資収益の両立の健全な循環に向けた知見の共有	① インパクト創出と投資収益の両立の健全な循環に向けた知見の共有
	② インパクトの価値創造ストーリーへの統合	② インパクトの価値創造ストーリーへの統合	② インパクトの価値創造ストーリーへの統合
	(③ インパクトデータの信頼性・解像度の向上)	(③ インパクトデータの信頼性・解像度の向上)	(③ インパクトデータの信頼性・解像度の向上)
	④ 企業と投資家との対話の創意工夫	④ 企業と投資家との対話の創意工夫	④ 企業と投資家との対話の創意工夫
	⑤ システム的思考と協働	⑤ システム的思考と協働	⑤ システム的思考と協働

データ・指標
分科会にて実施

今期の 主な議論

- 海外を中心としたIMMのフレームワーク・事例を理解した上で、どのように実務に落とし込むかの理解を深める
- 企業の事例を基にインパクト評価をどのように開示に繋げ、投資家と対話を深めていくかの知見を共有する
- アセットオーナー・アセットマネージャーの協働事例を共有し、インパクト投資市場の参加者の拡大に繋げる

概要

□ 背景・課題

地域に潜在的に存在する社会・環境的又は人的資源を活用し、地域発で社会・環境課題に対応し、経済・社会基盤の強化を実現することへの期待は高く、実際に、足元で多様な地域企業によるインパクトの創出例が見られつつある。一方、地域発の取組には多様な地域・事業者・資金提供者の特徴に応じた柔軟な資金調達、人材の確保・育成、ステークホルダー間の連携等が必要となる等、取組の実践は容易でない。

□ 目的

まずは多様な取組の浸透・拡大を図るため、ケーススタディやフィールドワークでの議論を通じて、社会・環境課題への対応の視点を取り入れた地域における価値創造等の取組が多岐にわたることの理解促進を図り、関心を喚起するような議論・発信を行い、地域におけるインパクト創出・投資に関する機運醸成やネットワーク構築の支援、それらを通じた地域への人材・資金の流れの強化といった地域における好循環の実現を目指す。

メンバー

※敬称略・五十音順

- 座 長 金融トラック：株式会社慶應イノベーション・イニシアティブ プリンシパル 宜保 友理子
 事業トラック：龍谷大学 教授 深尾 昌峰
- 副座長 金融トラック：株式会社日本政策投資銀行 経営企画部サステナビリティ経営室長 金谷 真吾
 事業トラック：一般財団法人社会変革推進財団 常務理事 工藤 七子
- ディスカッションメンバー （10名）
 - ・ 京都信用金庫 石井 規雄
 - ・ 日本商工会議所 岡本 大輔
 - ・ 三井住友信託銀行株式会社 金井 司
 - ・ 株式会社UNERI 河合 将樹
 - ・ 一般財団法人日本民間公益活動連携機構 小崎 亜依子
 - ・ 株式会社肥後銀行 坂口 尚
 - ・ 株式会社Zebras and Company 田淵 良敬
 - ・ 株式会社うむさんラボ 比屋根 隆
 - ・ UntroD Capital Japan株式会社 山家 創
 - ・ ベータ・ベンチャーキャピタル株式会社 渡辺 麗斗

分科会3 地域・実践分科会（2 / 2）

第1期

成果 ・ 課題

- **成果**：地域でインパクトを意識する必要性（Why）の共通認識を醸成し、事例を通じて得られた示唆を発信。
地域内外の幅広い関係者間での共通理解を醸成し共感・協働を得る方法や、インパクトを事業成長・経営改革の機会とする視点、多様なファイナンス手法の活用等について一定の視座等を抽出し、議論やフィールドワークを通じて共有された地域における創意工夫やプレーヤーの取組・想い等について、参考となるモデルケースを一般に分かりやすい形式で取りまとめ発信した。
- **課題**：具体的実践には地域における資金提供者の取り得る手段（HOW）を深堀りする必要があることを認識。

第2期

方針 ・ 活動 ・ 成果物 (想定)

- **方針**：企業の成長段階に応じた多様な資金提供者の協働、多様なファイナンス手法の活用に係る議論にフォーカス
- **活動**：分科会4回、フィールドワーク1～2回
 - ①**分科会** 多様な地域発のインパクト事例を通じて金融の観点から議論を重ね、ファイナンス手法のポイント等を取りまとめる。
 - ②**フィールドワーク** 地域のインパクト・ビジネスの実態把握（生の声を聴く）により、成果物の充実を図る。

	第1回 分科会	第2回 分科会	第3回 分科会	第4回 分科会	フィールドワーク
テーマ	第2期キックオフ	事例を通じた議論 ① ・デットの活用 ・地域エコシステムの構築	事例を通じた議論 ② ・エクイティの活用 ・地域エコシステムの構築	第2期の総括	地域の実態把握
アジェンダ(案)	○第2期方針の共有 ・年間計画 ・成果物イメージ ・多様なファイナンス手法の紹介・解説 ○意見交換	○事例検討 ・ファイナンス手法 ・地域金融機関において取り得るアプローチ ・成功・課題要素 ○成果物に関する意見交換	○事例検討 ・ファイナンス手法 ・連携のポイントと各ステークホルダーの役割 ・成功・課題要素 ○成果物に関する意見交換	○第2期分科会の総括 ・1～3回分科会、フィールドワークの振り返り ・得られた成果と課題 ○成果物に関する意見交換 ○第3期に向けた意見交換 ・方針、進め方、取り組みたい事項など	○企業ヒアリング・意見交換 ・地域の課題・現状 ・ファイナンス手法 ・地域金融機関において取り得るアプローチ ・連携のポイントと各者の役割 ・成功・課題要素

第2期キックオフに向けた足元の取組

- ・ 地域金融機関等にて行われている多様なインパクトファイナンス事例の調査・選定
- ・ 第2期成果物の取りまとめ方針案作成
- ・ 年間スケジュールの計画

- **成果物**：地域におけるインパクトファイナンス手法のポイント等を取りまとめ、多様な資金の出し手による参照・活用を促す。
 - ・ 地域におけるインパクト投資等において活用し得るファイナンス手法
 - ・ 地域金融機関等において取り得るアプローチ
 - ・ イノベーション企業・ローカルゼブラ企業等を含む地域のインパクト企業をスケールアップさせる上で有用なファイナンス手法（官民ファンドや政策金融の活用を含む）

概要

- 社会課題が多様化する中で、国や自治体等の行政組織が民間事業者と連携しその課題解決にあたる必要性が増しているところ、特にインパクトスタートアップと連携した社会課題解決の促進について議論する。
- 行政組織とインパクトスタートアップとの官民連携に関しては、行政組織側、スタートアップ側にそれぞれ課題が存在しており、こうした課題を構造化したうえで提示をし、課題解決の方向性と手法に係る議論を深めていく。
- 令和7年度は、昨年度作成した「自治体と地域課題解決に取り組むスタートアップの官民連携に向けた実践ガイド」を基に、官民連携に取り組むより多くの自治体やインパクトスタートアップ等の分科会への引き込みと、今後の事例創出に向けた具体的手法に関する議論を深める。

メンバー

※敬称略・五十音順

- 座 長：スタートアップ都市推進協議会 会長 高島 宗一郎
一般社団法人インパクトスタートアップ協会 代表理事 米良 はるか
- コアメンバー：
 - ・ 株式会社TBM 常務執行役員CMO 笹木 隆之
 - ・ ライフイズテック株式会社 取締役 CEAIO 讃井 康智
 - ・ 札幌市 経済観光局 経済戦略推進部 イノベーション推進課 スタートアップ推進担当 課長 高田 明
 - ・ 浜松市 産業部 スタートアップ推進課 課長 田中 言彦
 - ・ 株式会社CureApp 事業開発・推進統括取締役 宮田 尚
 - ・ つくば市 政策イノベーション部 科学技術戦略課 スタートアップ推進室長 屋代 知行
 - ・ 福岡市 経済観光文化局 創業推進部 創業支援課長 吉原 瑛二

分科会 4 官民連携促進分科会（2 / 2）

令和7年度の方向性

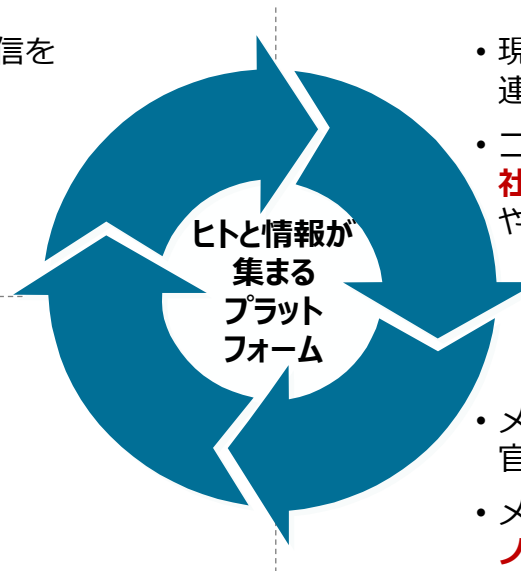
- 令和7年度は、官民連携に関わるより多様な関係者に加わっていただきながら、官民連携の実践を促進し、官民連携に係る集積知の更なる高度化を図る、**官民連携に係る「ヒトと情報が集まるプラットフォーム」としての機能を強化していく**
- メディアや投資家を分科会の活動に引き込みながら**実践ガイドやトップランナーの活動を発信するとともに、更なる事例創出に向けた土壌を整備**する

【対外発信・仲間づくり】

- 「実践ガイド」や官民連携に関する事例発信を通じて、分科会の**対外露出を増やす**
- 自治体・スタートアップの意思決定者や中間支援団体、メディア等、**多様な関係者をメンバーに引き入れる**

【実践・事例創出】

- 現在のメンバー・これから集まるメンバーの官民連携に係る**課題や現在地を把握**する
- コアメンバー・メンバーが実践ガイドを活用して**社会課題解決を図るための官民連携**を行い、事例やノウハウが生まれる



【知の集積・研磨】

- メンバーによる活動にて生まれた事例やノウハウ等をベースに「実践ガイド」を更新し、分科会が有する官民連携に関わる**知を増幅・研磨**する

【情報集約】

- メンバーの官民連携事例を集め、国全体としての官民連携の**動向や振興を確認**する
- メンバーが官民連携実践を通じて得た**ノウハウを事務局に集める**

令和7年度の活動予定

分科会

対外発信や仲間づくりを趣旨として、本分科会の活動や「実践ガイド」及びメンバーによる官民連携の取組に関する発信を行う（事業年度内2回程度を予定）

勉強会

実践・事例創出や情報集約を趣旨として、共同調達やトライアル発注制度の活用拡大等の官民連携に関する課題解決に向けた議論を行う（事業年度内3回程度を予定）

※開催形式は原則オンラインで1回につき1～2時間程度を想定（開催形式・回数は変更の可能性あり）

国際的な議論との連携、海外への発信について

- ❑ 国際的な動向や他国における先進事例に対する理解を深めるため、グローバルアドバイザーパネル及びアドバイザー委員会が中心となり、各分科会の活動における関連企画の組み込み、国内外のインパクト関連団体と連携したイベントの開催などに取り組む。
- ❑ 来年春頃を目途に、グローバルアドバイザーパネルを開催し、コンソーシアムの各分科会における取組状況などを海外に発信し、国際的な議論に貢献するとともに、海外有識者から国際的な動向を踏まえたフィードバックを得ることで、来期の方角性の検討に役立てる。

① 海外有識者からの知見共有、ネットワーキングの場の提供

- 各分科会（特に、データ・指標や市場調査・形成）の活動における海外事例の紹介、海外投資家の登壇
- インパクト志向金融宣言やGIINなど、国内外のインパクト関連団体と連携した共催イベントの開催

国際動向を踏まえた、コンソーシアムにおける議論の発展

② 日本の取組の海外への発信

- グローバルアドバイザーパネルの開催（時差等を考慮しエリアごとに複数回に分けて開催）
- 各種メディア等を通じた取組の紹介

日本と海外のプレイヤーの協働による案件の創出

インパクトファイナンスに関する国際的な議論への貢献

インパクト投資の認知・理解の更なる向上に向けた勉強会について

タイトル	「インパクト」の視点が広げる可能性 ～基礎から学べる、実践に向けた第一歩～
背景	コンソーシアム会員は拡大している一方で、会員ごとのインパクトファイナンスに関する知見や実践状況は様々であり、各分科会の議論も高度化していきなかつた、分科会への参画や実践に向けたハードルが高くなっているとの声もある。 そのような状況は、「裾野を広げる」ための新規会員の獲得に向けても解決されるべき課題であり、インパクトの基礎知識を提供することで、参画のハードルを下げるような機会の提供が必要。 特に、都心部エリア以外の全国で活動されているステークホルダーの巻き込みは今後重要な課題。
実施目的	■ コンソーシアムの議論や、インパクトに係る各社の取組の活性化 インパクトのトレンドや用語等の基礎知識のインプットを通じた、コンソーシアム（特に分科会）の議論等への参加や、インパクトに係る各社の事業や投融資活動の促進 ■ 新規・既存会員の参画の促進 コンソーシアム及び分科会の概要や参画のメリットに関する情報提供を通じた、コンソーシアムへの参加に対するハードルの解消（既存会員は離脱の回避）
主な対象者	■ 会員：分科会の活動に関心があるものの、前提となる基礎知識が足りていないと感じている方々 ■ 非会員：地域金融機関や中小企業といった、全国の地方で活動している方々や、機関投資家や大企業などで、インパクト投資に一定の関心はあるものの、コンソーシアムへの入会に至っていない方々
スケジュール・構成など	2025年10月～2026年6月にかけて全4回の開催を予定。参加者のバックグラウンドや理解度に応じて参加できるよう、下記のような構成を検討中。 【第1回】主に非会員を対象に、インパクトファイナンスに対する関心や正しい理解を持ってもらうことを目指す。 【第2回】金融機関や投資家などの資金提供者を主な対象に、インパクトファイナンスの実現可能性や投資戦略への取り込み、インパクト評価手法への理解を深めてもらうことを目指す。 【第3回】スタートアップ企業や大手企業などの資金調達事業者を対象に、資金調達や経営戦略においてインパクトに着目する意義について理解を深めてもらうことを目指す。 【第4回】コンソーシアム分科会の足元の議論を紹介し、今後の活動への積極的な参加を促す。

(参考) コンソーシアムの体制 (1 / 2)

有識者等によりアドバイス等を受ける機構として、それぞれ以下のような目的で、「アドバイザリー委員会」、「グローバルアドバイザリーパネル」、「オーガナイズングデスク」の3つを設置し、メンバー間及び対外機関等との円滑かつ実効的な議論を進める。

総会

- ・ 事業方針と運営の基本的事項を決定
- ・ 役員（会長・副会長）の選任

運営委員会

- ・ 総会日程、分科会の設置・調整・進捗確認
- ・ その他運営事項の決定

アドバイザリー委員会

コンソーシアムの運営等に関する助言

グローバルアドバイザリーパネル

海外の有識者からの知見共有、日本の取組の対外発信等

オーガナイズングデスク

分科会等に対し、グローバルな専門的知見に基づくアドバイスを提供し、関係者の意見収集を踏まえた多様な目線で議論を喚起

分科会

- ・ 会員は各分科会への参加が可能。
- ・ 効果的な議論推進のため、集中的に議論を行う「ディスカッションメンバー」等を設定。

1. データ・指標

2. 市場調査・形成

3. 地域・実践

4. 官民連携促進

事務局

- ・ 国が支援を行いつつ、各機能を委託（会議運営、イベント運営、ホームページ作成等）

(参考) コンソーシアムの体制 (2/2)

※敬称略・五十音順

アドバイザー委員会

- 様々な専門分野の有識者によるコンソーシアムの運営等に関する助言を行う。

委員長：安間 匡明 PwC Japan合同会社 スペシャルアドバイザー

グローバルアドバイザーパネル

- グローバルな実務動向について知見を得つつ、本邦における活動の方向性について幅広い議論を行う。海外の機関等を都度若干名程度アドホックで招聘(オンラインを含む)し、本邦関係者と議論を行う。

パネルに招聘する団体等の例：国際機関・ネットワーク、海外有識者・実務担当者等

グローバルアドバイザーパネル企画座長 (Co-Chairs, Global Advisory Panel Planning Committee)

- ・ UntroD Capital Japan株式会社 藤井 昭剛 ヴィルヘルム氏
- ・ GLIN Impact Capital 中村 将人氏

オーガナジングデスク

GSG Impact JAPAN

- 分科会等に対し、国際的・専門的知見に基づくアドバイスを提供し、関係者の意見収集を踏まえた多様な目線で議論を喚起

事務局 業務委託先

有限責任監査法人トーマツ

- 分科会を含むコンソーシアム全体について、会議運営、イベント運営、ホームページ作成等を担う

1. 開会

2. 足元の状況

【10分】

- ◆ 総会決議の結果、会員の状況
- ◆ 成果報告会アンケート結果

3. 今後の方針

【45分】

- ◆ コンソーシアム全体（事務局）
- ◆ 分科会（座長）
- ◆ 国際的な議論との連携・海外への発信（グローバルアドバイザリーパネル）
- ◆ インパクト投資の認知・理解の更なる向上に向けた勉強会（オーガナイズングデスク）

4. 意見交換

【30分】

5. 閉会

意見交換：インパクトコンソーシアムの今後の運営について

- 各分科会における第２期の進め方やテーマ、連携の可能性について
- 国際的な議論との連携、海外への発信について
 - ✓ 各分科会で取り扱う予定のテーマのうち、海外事例のインプットが特に有効と思われるものは何か。
 - ✓ 他のイニシアティブと連携したイベントを企画する上で、取り扱ってほしい課題やテーマはあるか。
- その他自由討議